

第3回八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議 説明資料

事業名	こどもの居場所MAP作製事業
担当課	こども未来課
目的	・ こどもたちがそれぞれの目的に合わせ、自分の居場所を容易に見つけられる環境を整備する。 ※こども・・・小学生から大学生の年代を想定 ・ 既存施設の活用を促進するとともに、こどもたちに自分の近くにある場所を知ってもらい、まちの魅力の気づきにつなげる。
事業内容	・ こどもたちが過ごせる場所や学び・体験の場等の情報を収集し、その情報と位置情報と合わせたMAPを作製、インターネット上で公開する。 ※こどもまちなか IT 部ホームページ内に開設。
現状と課題	・ 既存施設をもっと知ってもらい、多くの方に利用いただくための取組も重要である。 ・ こどもたちがそれぞれの目的に合わせて情報を探すのは大変であり、簡単で分かりやすく集約された情報発信の仕組みをどう構築できるかが課題である。

第3回八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議 説明資料

事業名	拡大解釈ですが、以下、「若者がゆるーくつながれる場所づくり」に関連しそうな事業を列記 ① 中心街での創業支援（若者に限らず） 出店に係る改装費等への補助（市） ＋事業計画作成等創業サポート（8サポ） ＋空き物件の紹介（まちづくり八戸） ② はちのへホコテンの開催 市は、開催事業費への補助＋中心街委員会への参画 ③ 八戸七夕まつりの開催 市は、開催事業費への補助＋中心街委員会への参画 ④ 番町サテライトキャンパス（ばんらぼ） 市から、キャンパス進出に伴う改装費等への補助
担当課	まちづくり推進課
事業内容	① 3者が連携して中心街での創業促進及び空き店舗解消 今年度は、20代前半の女性が同制度を活用し7月に開店予定。 ② 10月に「高校生ホコテン」を実施 各校の特色を活かしたステージ企画やブース出展（昨年は、八高、東高、千葉高、八工高、ウルスラ高が参加）。当日の運営（司会）従事。<u>高校生合同企画の実施（気配切りや合同バンドライブ）</u>。 ③ 八戸七夕まつりの開催 大学生による七夕飾り制作の動画作成及びWS開催。 ④ 番町サテライトキャンパス（ばんらぼ） キャンパスでは、公開講座や学生が制作した作品の展示、研究室の活動等のほか、市民が自由に滞在可能。
現状と課題	【現状】 ○ 若者が物理的に「居る」ことができる場所（はっちやマチニワ等公共施設）はある。 ○ 「創業」という「活動」に対するサポート体制はある。 ○ スポット的に若者が「活動」「表現」する機会はある。 【課題】 ○ レールが敷かれての「活動」ではなく、本当に自分たちがやりたい「活動」を好きな時にできたり、大人や同世代等と繋がりたい時に繋がることのできる「場所」が無い。 ○ そうした、ゆるーい「活動」やゆるーくつながる「場所」では、周囲（サポートしてくれる方や物件所有者等）の協力が必要。

第3回八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議 説明資料

事業名	アートファーマープロジェクト
担当課	美術館
目的	美術館の企画や運営に能動的に関わる市民の方を「アートファーマー」と呼び、アーティストと共に行うプロジェクトなど、アートを通じて新たな価値を共に創造する。
事業内容	(1) 建築ツアーガイド (R3～) 美術館のコンセプトや建物の特徴を学び、実際に体験を通してオリジナルガイドを行う。(年齢制限なし) (2) 広報部 (R6～) 美術館のコンセプトや建物の特徴を学び、実際に体験を通して展覧会や美術館等を SNS 等で発信する。(中学生以上) (3) ものづくり部 (R7～) 美術館の中に、ものづくりができる場所をつくるとともに、中心街での中高生の活動場所としての活用を推進する。 (幼児～ ※体験内容により設定)
現状と課題	【現状】 (1) 建築ツアーガイド ・ガイドスタッフ数 33 名 (1 期生 10 名、2 期生 6 名、3 期生 7 名、4 期生 10 人) ・ガイド実施 年 13 日程度 (毎月最終土曜日ほか) ・建築紹介パンフレット発行 (2) 美術館広報部 ・登録者 9 名 ・月 1 回のペースで講座やミーティングを実施。 ・BeFM「ゆうらじ Hachinohe」に出演 (R7 年 4 月～月 1 回) (3) ものづくり部 ・体験ワークショップ 令和 7 年 6 月 14 日 (土) ①ぬり絵体験、②紙工作、③ライブドローイング ・活動に関わるアートファーマーを募集 (6 月中旬～) 【課題】 ・新規参加が増えるような広報の方法や参加しやすい仕組みづくり。 ・アートファーマーが主体的に企画・実施できるような仕組みづくり。

第3回八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議 説明資料

事業名	市民で賑わう公園魅力向上事業
担当課	公園緑地課
目的	・市が管理する公園において、草刈りや樹木剪定などの適切な管理が行き届いていないことから、公園利用者の安全・安心の確保と地域コミュニティの活性化に向けて、日常管理や既存施設の管理をさらに充実させるとともに、公園施設の整備を進めながら公園の魅力向上を図る。
事業内容	・公園の包括管理委託の充実 市内約 300 箇所の公園内の清掃・草刈り・樹木剪定等を実施 ・八戸市公園樹木管理計画の策定 市が管理する公園内の樹木の現況調査を実施し、調査結果を基に継続的かつ計画的な樹木管理計画を策定 ・公園施設の充実及び未整備公園の整備 こどもの遊び場の提供のため、遊具等の公園施設の整備及び未整備公園の整備を実施
現状と課題	・市内の公園樹木の多くは植栽後数十年が経過し、高木化・密集化、腐朽が進んでいる老齢木であり、枝葉の伸長による園外への越境や倒木の危険木が年々増加。 ・地元町内会の高齢化や担い手不足により、町内による管理が年々困難になってきている。

第3回八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議 説明資料

事業名	自主事業、貸館事業、会所場づくり
担当課	八戸ポータルミュージアム
目的	新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や、観光と地域文化の振興を図ることで、中心市街地と八戸市全体の活性化を目指す。
事業内容	【居場所づくり関連事業】 1. 自主事業 中心街の賑わい創出、文化芸術活動の振興、ものづくり、観光を軸に事業を企画実施しています。 例えば、「まちぐみ事業」は、歩道補修やひしぎし体験、山車づくりなど多様な切り口で年間を通じた活動をしています。 「はっち放送部」は、学生対象の活動ですが、テーマを決めて取材し、ラジオ番組を制作しています。 「はっち Friday Live!」は、音楽やダンスなどのパフォーマーを公募し、無料で鑑賞できるライブです。学生優先の公演日も設けています。 また、今年度は、開館 15 周年記念事業の一環で、館内ものづくりスタジオ入居者と連携して、館内の椅子のカバーを南部裂織の布で制作する取り組みも実施予定です。多くの市民等に気軽に来て参加できるようにしたいと考えています。 これらの事業は、興味を持った時に活動に参加でき、多様な層の人々と出会う場にもなっています。 2. 貸館事業 様々な機能を持つスペースや印刷機などを貸し出し、創作活動、発表、定期的な活動など多様な市民活動をサポートしています。年間およそ 3,000 件の貸館利用があります。

	3. 会所場づくり はっちでは、気軽に立ち寄り、まちの憩いや集い、地域の文化に触れることができる場である「リビング」があります。無料で本を読める「ライブラリー」も併設しています。 普段は主に高校生の勉強利用やカフェ等での飲食や買い物、待ち合わせ等に利用されています。
現状と課題	・「まちぐみ事業」の歩道補修は、まちぐみ組員以外の参加もあり、活動の輪が広がっている。 ・「はっち Friday Live!」は、応募数が増えており、認知度が向上している。 ・貸館利用者及び来館者数は、コロナ禍で減少し徐々に回復しているが、コロナ禍以前までは戻っていない。